

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人天竜厚生会
施設名	子育てセンターとものもり
報告者	中野久実（園長）
住所・連絡先	静岡県掛川市大池 2305
	電話 0537-25-6800

○タイトル

体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを感じながらいろいろな動きに挑戦し、バランスの取れた体づくりをしていきます。

○主な助成備品

巧技台 B セット一式

1. 保育計画策定の目的

乳幼児期における運動遊びは、心身の発達において大変重要です。当園では、地域の自然を生かし、散歩に出かけ歩くことを大切にしています。近隣の公園や自然環境の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶ等、子どもの身体的発達を促す様々な保育内容を計画し実践しています。今回は室内での身体的活動の充実を図るために巧技台の導入を行いました。体を動かす様々な活動は、身体的発達を促すだけでなく、脳から各部位への信号伝達による思考力の発達も促します。また、遊びに合わせルールを発展・変化させたり、新しい遊びを自発的に創り出したりすることで、豊かな創造力も育っていきます。子どものバランスの取れた体づくりを促すため、幼児期に獲得したい様々な動きを遊びながら身につけることができる保育・教育活動の実践のために巧技台を活用していきたいと思えます。

2. 具体的な実施内容

<0歳児>

巧技台をハイハイで登ったり、マットの下に巧技台を置き山登りや山下りを楽しんだり、滑り台を取り付けお尻を使って滑る等、全身運動をしました。



<1 歳児>

巧技台に登ったり降りたり、一本橋も慎重に渡ります。
バランス感覚が養われます。



<2 歳児>

一本橋を歩いて渡ることができない子は、お腹を一本橋に付けて両手両足を使って渡る姿が見られました。足腰を鍛えると共に握る力や腕の力もつけていきました。自分で自分の力を考えて挑戦していました。



<3 歳児>

サーキット遊びをしながら、全身を使った遊び方をしていきます。梯子渡りでは、手を使わずに渡る子は、バランスを取りながら慎重に渡る姿も見られました。自信がない子は手を付きながら登っていました。



<4 歳児>

サーキット遊びをしながら、全身を使った遊び方をしていきます。鉄棒を取り入れることで新たな活動が生まれます。よじ登り、前回り、逆上がりまで挑戦していました。



<5 歳児>

サーキット遊びをしながら、どんな組み合わせにも挑戦し、バランスよく運動遊びができるようになりました。



3. その成果と評価

0 歳児から、様々な動きの遊びを取り入れることで「体を使って遊ぶことが楽しい」という気持ちが芽生え、巧技台をいただいたことで雨の日でも子ども達が大好きな運動遊びを取り入れることができるようになりました。園庭でも積極的に体を動かして遊ぶ子どもが多くなり、鉄棒や雲梯に挑戦する姿も多く見られるようになりました。また昨年に比べ、2 歳児以上において転ぶ件数が減り、体のバランス感覚が促され足腰が鍛えられたのではないかと考えられます。

4. 今後の課題と展望

サーキット遊びがマンネリ化しないように、巧技台の組み合わせを工夫し、子ども達の発達に合わせて楽しい運動遊びができるようにしていきたいと考えています。子ども達の体力を伸ばすためにも、子ども達の発達のおさえを職員がしっかり把握し、目の前の子ども達に合った運動遊びを提供していくことが大切です。脚力、腕力等必要な動きを上手く遊びに取り入れていきたいです。

以上